

特集「ソフトウェア開発における仕様記述法とその適用」の編集にあたって

伊藤 潔[†] 大 蒔 和 仁^{††}
 永 田 守 男^{†††} 吉 田 裕 之^{††††}

「ソフトウェア開発における仕様記述法とその適用」をテーマに特集号を企画した。ここで、仕様記述法とは、ソフトウェアの開発における要求仕様、設計仕様、プログラム仕様など広範囲の仕様の記述・作成法を意味する。

ソフトウェア工学の分野では、ソフトウェア工学研究会の研究発表会やシンポジウム等の活動が他の分野と同等以上に活発である反面、論文誌では、個々に論文が採択されているが、これまでソフトウェア工学に関する論文特集号の企画はほとんどなかった。このため、論文誌編集委員会ソフトウェアグループが、ソフトウェア工学で重要な分野の1つである仕様記述に的を絞った独自の企画を立て、さらにソフトウェア工学研究連絡会の協賛を得て、編集を進めることになった。

本特集は、1992年12月にソフトウェア工学研究会と「仕様記述の効率的適用と評価」時限研究グループの共催で行われた仕様記述特集の研究会を原点として、その発表者、ソフトウェア工学研究会の通常の研究発表会・シンポジウム等で「仕様記述法とその適用」に関して発表された方々、およびこれに関連した研究開発者の方々に対して、学会誌会告やe-mail等の各種の広報手段を幅広く活用して広く論文を募集した。

その結果、当初の予想を大きく上回る35件の投稿があり、ソフトウェア工学や仕様記述法についての幅広く根強い研究の存在を改めて認識した。ほぼ半年にわたる編集作業で、多くの査読者の方々の慎重な審査に

より、その内、17件が採録された。

情報処理学会の論文誌編集委員会は、1993年6月より運営形態が変わり、分野ごとにグループ（基礎、ハードウェア、ソフトウェア、応用）に分かれ、グループごとに分野の論文の採否案を審議し、編集幹事会にかけるという形態をとるようになった。この結果、論文審査の手続きが迅速化され、さらに、幹事会を中心に論文誌のあり方や査読方法の検討など様々な改善が図られた。また、テーマを決めた特集号の企画などもこれまで以上に活発に行えるようになった。

本特集は、このような環境の変化の下、1994年5月に改訂された新投稿規定（主な改訂の骨子は、同一著者らの研究あるいは開発の成果発表の最終形態を、学術雑誌の論文であると位置づけ、それ以外の発表は全て途中経過報告とみなし、既発表論文とみなさないことである）に従った、初めての特集である。

次頁以降の採択された論文群では、ソフトウェアの再利用、形式的仕様、代数的仕様、オブジェクト指向、仕様変換、仕様の詳細化、自然言語仕様、図的仕様、実行可能仕様、プロトタイピング、ドメイン分析・モデリング、メソッドエンジニアリング、関係代数、属性文法、Z記法、状態遷移モデル、ペトリネット、知識表現、等式論理、仕様記述環境、プログラム生成、等の幅広い内容が扱われている。

おわりに、本論文特集に対して投稿いただいた方々、また、51名にもものぼる査読者の方々に感謝します。

[†] 上智大学

^{††} 電子技術総合研究所

^{†††} 慶応義塾大学

^{††††} 富士通研究所